

広報国際室 戦略的な広報創出委員会

委員長／本間 税 副委員長／百合 拓泰 委員会幹事／相田 紘人

委員／鎌田 篤則 玉森 愛 野口 丈介 三上 隆広 山田 信幸

古谷 隆憲

1 2017年度戦略的な広報創出委員会では、現代の多様化する情報社会において、一方
2 的な発信だけでは広報活動の効果が満足に得られることも多くない現状を真摯に受け止め、
3 伝わらなければ伝えたことにならないという意識のもと、共感により我々の運動が効果的
4 に伝播する環境を創出すべく広報活動に邁進して参りました。

5 まずは、函館青年会議所に興味を持つ人びとや会員に情報の共有を促すために、HPに
6 て新鮮な情報を発信し、我々の活動内容を通知いたしました。そして、まだ我々の活動を
7 知らない人びとの興味を集めるために、フェイスブックやユーチューブなどの情報発信手
8 段を駆使し、例会を担当する会員の想いを活動内容に組み入れ発信いたしました。さらに、
9 我々に向けられた関心を向上させるために、HPにてお問い合わせフォームの設置や、S
10 NSにてライブ配信を行うことで、対外に対しては相互理解を深める手段による共感を創
11 出し、対内においては情報の共有から生まれる一体感を創出しました。また、我々の運動
12 がより大きな波及効果を生むために、世界に誇れる函館圏創造委員会と連携し、インスタ
13 グラムを活用し、地域の魅力を世界へ発信いたしました。そして、我々の活動により起こ
14 る能動的な口コミを増やすために、黒船や黒豚祭りなどの地域活性化事業に参加し、社会
15 的認知度を高めることができましたが、町内会イベントや港祭りでのゴミ拾いなど、叶え
16 ることが出来なかった委員会活動もあったことが悔やまれます。さらに、9月例会では、
17 多くの対象者に各事業に参加していただくために、オブザーブ参加を促し、企業活動にも
18 通じる広報PRを用いた戦略的な広報を活用する意識を醸成していただきました。また、
19 9月例会にて学んだことを活かし、青少年育成事業に焦点を当てたPR動画を作成するこ
20 とで、函館青年会議所が地域に根差した団体であるというブランディングを行いました。

21 一年間の広報活動を通して、絶えず情報発信するモチベーションの維持と忍耐力の必要
22 性をひしひしと感じ、ニーズの本質を突いた情報発信の重要性について学ばせていただき
23 ました。函館青年会議所の社会的認知度の向上など、一朝一夕では得ることが出来ない事
24 柄ながらも、多くのメンバーや関係者の皆様からの協力を得ることで、その一端を担うこ
25 とが出来たのではないかと感じております。継続した広報活動は必ず実を結び、青年会議
26 所運動の理念や想い、情熱を分かち合う人たちの手により、我々の運動が市民へ向けて効
27 果的に伝播する環境になると確信いたしました。

28 最後になりますが、委員会メンバーには各例会などの写真撮影、SNSやブログの更新
29 などをはじめ、例会構築や委員会運営など、至らない点の多々ある私にとって大変な支え
30 となっていただきました。2017年度戦略的な広報創出委員会メンバーが最高であった
31 ことをここに称え、委員会報告とさせていただきます。